

トレラン試走記



■一ヶ月前

初めてのトレイルランニング。

川の道フットレースのダメージも癒えたレース一ヶ月前、さすがに練習もせずいきなり本番ではと、高尾山に出かけた。

一人で高尾に入るのは初めて、登り口さえ定かでない。高尾駅の書店でガイドブックを立ち読みする。一駅先の高尾口駅から登るらしい。駅の観光所で簡単な地図をもらう。

休日の殆どを海で過ごすようになって数年、山からは足が遠のいていた。ひさびさの山の空気、胸一杯に懐かしさが蘇る。山、ただいまー。

トレイルランニング・・・読んで字のごとく、とにかく山を走れば良いのかしら??



いたる所にまき道があり、心配になって男の子たち声を掛けた。一緒に走ってみても良いですか。山系サークルの大学生とOBだった。モンブランのレースや縦走の練習に来たというだけあって足取りは軽く、一緒に風を切るのが楽しい。走りながら色々なことを教えてくれた。復路はまた一人になったが、ベテランランナーに声をかけて一緒に駆け下りた。速過ぎるくらいのスピードが、心地良い。旅は道連れ、世は情け。こんな偶然の出会いが楽しい。



■一週間前

試走のお誘いを受け、雨の中、前半1 / 3程を走った。6月の雨で緑が一層鮮やか。小江戸大江戸ぶりの再会を喜んだり、当日エイドボランティアをする方など、参加者は6名。楽しくて最後まで一緒に走りたかったが、15時までに浅草で義太夫を聞く約束をしていた。バスがなくて困っていると、STさんがスタッフの隠れ家を作った地元の大工さんに連絡してくださり、その方に駅まで送っていただいた。翌日は日差しが強く、蒸し暑かった。全コースを試走しようとしたが道に迷い、始めの5kmに2時間を費やす。民家の女性が、ご苦労さん、どこまで行くの？ソーダでもあげようかと声をかけてくださった。走る道々や車中から、レース告知の看板を見た地元の方々が、来週だよ頑張っていて、気をつけてね、と声をかけてくれた。

地元の方に道を聞くが、最短ルートはわかっても、地図通りのコースやトレイルについてはわからなかった。結局STさんに携帯電話で道を聞き、13時にやっとトレイルの登り口に辿り着く。ライトは持ってきたが、40kmは無理そう。

黒山3滝を抜け、美しい沢沿いを駆け、沢の水を飲む。樹齢千年の大きな楠に会いに行く。所々に雲海、遠くに見える山脈。森を一人歩くことには慣れている。樹、花、虫、鳥、野うさぎやリス・・・こんなにも森は豊かで生き物に溢れている。



30km地点で18時半、ぼつりぼつり、空模様も怪しい。

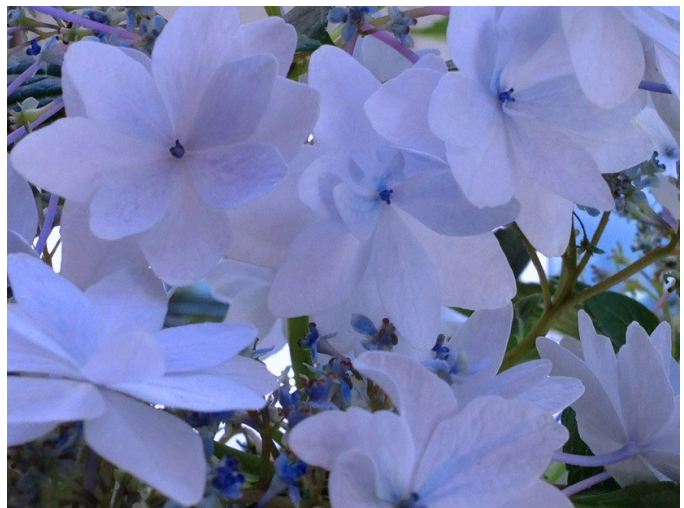
トレイルを抜けると、この辺りで生まれ育ち、学生時代は山岳部だったと言う男性が声をかけてきた。どこまで行くのかと尋ねられ、地図を見せた。かなりマニアックなコースだねと何だか嬉しそう。今から、古民家を移築した味わい深い露天風呂に行くと言う。車で待っていた彼女に、デート中にすみませんと挨拶し、3人で露天風呂に。北海道などをヒッチハイクしていた頃の恩返しに、よく人を捨うと言う。

蛍が見られるせせらぎや、走れなかった後半のコースを車で行って見ないかと誘ってくださった。東山道の歴史や、秩父の山々、埼玉の里の美しさやバックパッカーの話など、色々な話をした。

大杉のある神社で、おみくじを引いてみてと彼女から100円を渡された。でも、と躊躇していると、いいからと強く勧められ、促されるままに引いてみた。

そこには、”騒がずとも自ら勝つ”とあった。不思議なご縁がもたらした神様からのメッセージ、安心してレースに臨もう。

電車の乗り継ぎも良いからと、車で30分程の所にある彼らの自宅近くの最寄り駅に向かった。もっとたくさん蛍がいる、地元の人しか知らない沢があると、黄金色に実った麦畑に田植えしたばかりの水田のコントラストが美しい里を案内された。終電一本前にお見送りまでしていただいた。渡された連絡先には、比企に来てくださりありがとうございますと書かれてあった。埼玉の自然や歴史を愛してやまない彼らの気持ちが心に響いた。



■ お手伝い

仕事がひと段落したので、休みを取ってスタッフボランティアに参加した。北の国から出てくるような素敵な隠れ家で、パンフレットを綴じたり、矢印をパウチした立て看板などを作るお手伝い。40kmで100以上の矢印看板が必要なのだという。迷いやすい所に必要な方向の矢印をプリントして準備。30km・40km・共通の3種、設置場所に合わせて8方向の矢印を必要枚数分プリントする。パウチをして、防腐処理をした杭に貼付ける。大量の木の看板を車に積んで、コースに向かう。走ってきた人から見えやすく、地元の方の迷惑にならない場所に木槌で打ち込み、周囲の下草を鎌で刈る。10m程前から走ってみてその位置で方向が即座に認識できるか確かめる。引き抜いては場所を変える。

景色の良いところでお昼ご飯。参加スタッフの方は強者ぞろい。トランスヨーロッパや、冒険家の植村直己賞、百名山を一気に登る旅の話など、とても興味深い。

午後、もっと良いルートがあるから、一部分コース変更しないかというSTさんたちについて行った。面白いコースだった。直前だったため、結局そのままのコースが採用された。レースに出るよりも、様々な要素を考慮しながらコースデザインをする方が、きっともっと楽しそう。ゴール地点手前で看板を立てていると、川の道の道中でも見つけた四葉のクローバーを発見。今回は五葉のクローバーも2つ。縁起が良いので、またまたマップケースに挟んだ、大杉のおみくじと一緒に。レース当日はきっとここまで戻ってこよう。



■レース前日

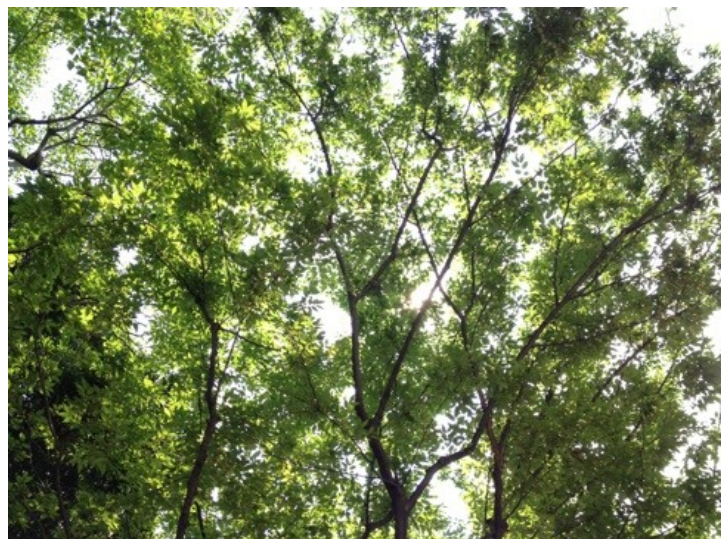
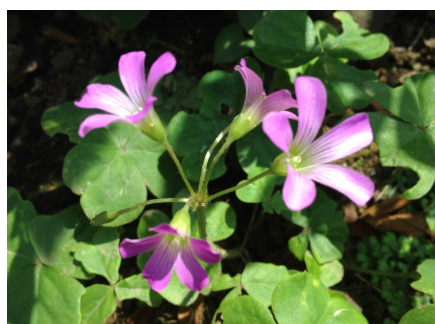
明日の天気がかかりかかる。予報は雨後晴れ、最高気温30度。きっと午前中は雨で泥々、午後はかなり蒸し暑そう。

暑さ対策に、リュックをやめて、ウエストに付けるボトルホルダーにしたいが、そんなものは持っていない。市販の物は腰の辺りがどうも暑そう。柔らかさのあまり、肌に直接付けると擦れそう。そこで、沢登りで使っていたスワミベルトに、100均で買ってきたボトルホルダーをちくちくとお裁縫。靴はいつものロード用ランニングシューズ。トレランデビュー戦の出費は合計105円。不具合があったら、また次のレースまでに工夫すれば良い。

■スタート前

雨は止んでいた。

自宅から越生までは3本乗り着ぎ。せっかくなので、参加者らしき女性に声を掛けた。優しい雰囲気の彼女に、初レースの緊張感も解れ、何だかほんわかする。始発で向ったのにも関わらず、ぎりぎり準備・スタートに間に合う時刻。現地には、既にたくさんの参加者とスタッフ。前泊、早朝から本当にお疲れ様です。受付や参加者の中には、試走で一緒だった方々の笑顔。他にも、矢印看板作成時にご一緒させていただいた方、小江戸大江戸200kや川の道フットレースの参加者、川の道の完踏記を読んだよと声をかけてくださる方々。有り難く、本当に嬉しい。



■スタート

食べ物を少量しか持たずに走ったから、毎回「おなか为空いて走れません～」・・・とエイドに飛び込む始末。たくさんの顔見知りの方がエイドボランティアをしていて、エイドに着く度に温かく迎えてくださった。スタート前、「ゼッケン通り1番に戻っておいで」と笑顔で送り出してくれた方が、「言った通りに帰って来たね～」と出迎えてくれた。小江戸大江戸の試走会で知り合ったみどり安全の方が塩飴をくださり、エイドや移動車から声援を送ってくれた。

後半、試走したにも関わらず道がわからなくなり、ゴルフ場の前で立ち往生、後続のランナーが来るのを待って、道を聞いた。

さらに、その先のそば道場で右折せず、気持ちよい下り坂を軽快に疾走・・・何かおかしいと気づいた時のショックと言ったら。。。戻って確かめないとわからないが、進むべきか、戻るべきか、はたまたこの辺りの民家に飛び込んで聞くべきかー、迷った、困った。人を捜そうにも、人がいない。結局戻ることに決め、太陽燦々の上り坂を見上げた。戻るの、嫌だなあー。

■ゴール

ゴールではSTさんやO田さん、スタッフや色々な方々の驚いた笑顔、ひよっこが元気に戻ってきたことをとても喜んでくださった。お世話になった方々が喜んでくださったことが、何よりも嬉しかった。走って良かった。

会場では、地元の山野草の揚げたて天丼がふるまわれた。梅で有名な越生は、ゆずの里でもある。地元の方からはゆずジュース、スタッフブースではケーキやお菓子がふるまわれた。



今後は、ボランティアやエイドスタッフなどの舞台裏も含めて、レースに関わっていきたいと思いました。ありがとうございました。

小江戸大江戸200k完走記: http://www.trainic-world.com/notes/2012_koedo-ooedo202k_mizuki.pdf

川の道520k完踏記: <http://sportsaid-japan.maxs.jp/sai.files/right.files/sankaki/result/12kawanomichi-aotani.pdf>